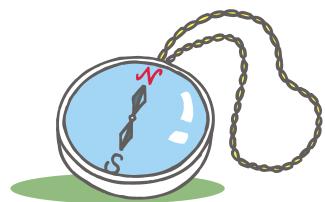


羅針盤



第**20**号

令和7年10月20日(月)

◆ 未来は「心の持ち方」次第

40℃を超えるような記録的な猛暑日が続いた夏が終わり、涼しい風が吹き始めています。暦のうえでは、秋の終わりに向けた季節となってもおかしくはないのですが、地球温暖化の多大なる影響で夏の終わりとともに、突然冬がやってくるような感が否めないような気もします。さて、今日はアフリカのとある未開の地を訪れた二人のセールスマンの話を紹介します。その二人のセールスマンというのは、それぞれ違う靴の販売店に勤めるセールスマンです。二人はアフリカに靴を販売するために出かけてきました。しかし、二人にとっては予想外の状況が待ち受けていました。何と、そこに住んでいる人たちは誰もが裸足で、靴を履かずに生活をしていたそうです。もし、生徒の皆さんが、同じく靴販売のセールスマンであったなら、この場面でいいたいどのように感じて、どのような行動をとりますか。この二人のセールスマンは、それぞれに違った行動をとります。一人目のセールスマンは、急いで会社に戻って、次のように報告しました。「全然ダメです。この土地に暮らす人たちは誰一人として靴を履いて生活をしていません。この土地では、靴は全く売れないと思います。靴の販売は諦めましょう。」と。一方、二人目のセールスマンは、「すごいことになりそうです。誰一人として靴を履いて生活をしていません。靴の良さを伝えることができれば、靴は飛ぶように売れること、間違いないです。とんでもないチャンスが回ってきました。早速、販売店をつくって、たくさん靴を売り出しましょう。」と報告したそうです。同じ光景を目にして、同じように唖然とした二人のセールスマンでしたが、二人の頭の中では、全く正反対の考えが生まれたという訳です。物の捉え方といったものは、人それぞれです。同じ状況にいたとしても、その状況をポジティブにとらえることができるか、それとも、ネガティブにとらえてしまうかによって、全く判断が異なることとなってしまい、当然のことながら、おそらく結果もまた違ってくることとなるでしょう。「未来を変えられる」といったことを思うのか、それとも、思わないのかによって、取り組み方が随分と違ってしまうということです。つまりは、「未来は自分の心の持ち方次第によって変わってくる」ということです。自分の置かれている状況を「ピンチ」としてとらえるのか、それとも、「チャンス」としてとらえるのかは自分自身の考え方次第です。苦しい場面に遭遇した時にこそ、できるだけ心を落ち着かせ、精一杯に前向きにとらえて取り組んでいくことが、自分の持てる力を十分に発揮することにつながっていくはずだと思います。また、人が幸せになれるかどうかを決めるのは、「でも」と考えるか、それとも、「では」と考えるかで大きな違いが生まれてくるそうです。「今からでもできる」と考えるのか、「今からでは無理だ」と考えるのかによって、その後の人生が大きく変わっていくそうです。3年生の皆さんにとって、中学校を卒業するまで5か月程です。勉強をしていても成績が伸びないで焦るときもあるでしょう。それでも、「今からでは間に合わない」と考えるのではなく、「今からでもやればできる」と考えて、残された時間を有効的に活用しながら、自分自身の進路獲得に向けて、精一杯の頑張りを続けてもらいたいと思います。

